

教科 科目 単位数	地理歴史 地理総合 2	受信校	北海道穂別高等学校	学科 学年（年次） 履修・実施	普通科 第1学年 必修・一斉
教科書 副教材	『高校生の地理総合』帝国書院（地総 707） 『新詳高等地図』帝国書院（地図 702） 『高校生の地理総合ノート』帝国書院				

1 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深める。

（高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）より）

2 学習のポイント

- (1) オリエンテーション時に示す「授業のルール」を守り、積極的に授業中の活動に取り組んでください。
- (2) 授業で利用するペーパー類は、Web上での配布となります。紙媒体として持っておきたいときには、所属校の担当の先生に相談してください。
- (3) 適宜、ペアワークやグループワークを行います。相手の意見や主張を尊重しつつ、自らの意見や主張を積極的に発信していきましょう。
- (4) 授業中、主に教科書・演習ノートを使用して授業を行います。説明の内容や疑問に思ったことはノートを準備しメモ取るなどの工夫をしてください。
- (5) 普段から、「なぜ」「どうして」という姿勢で授業に能動的に参加しましょう。

3 学習の評価

(1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

(2) 評価方法と観点との関連（◎＝特に関連の深いもの）

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ	地理総合ノート	◎	◎	○	地理総合ノートの取組
ウ	言語表現活動	○	◎	◎	探究学習の文書化・発表
エ	テスト	◎	○	○	定期考査や小テスト
総括時の比率		1	1	1	

4 その他

＜遠隔授業について＞

(1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。

(2) 授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。

(3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

(4) 授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、クラスルームなどを利用してもらっても構いません。

(5) 授業では常に持ち込み端末を利用します。各自で Google の学校（公式）アカウントの設定や充電を忘れないようお願いします。

5 年間授業計画(計70時間)

月	○題材 ●主な教材	配当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	
4 / 5 / 6	○ オリエンテーション	1	遠隔授業の学習について	アンケートへの回答などからの生徒理解	③オリエンテーションでの積極的参加姿勢	
	○ 地球儀と地図 ● 1部 1章 1節	1 2 1	・地球上の位置と地上の現象 ・経度の違いと時差 ・球体と平面の世界	・情報を地図化する方法を習得し、自分で地図を作成する。 ・GISやGPSの仕組みについて理解する。	①地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身につけている。 ②各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	
	○ 地図と地理情報システム ● 2節	2 3	・地図の種類 ・地理情報システムの利用	・情報や地図のデジタル化が私たちの生活にどのように役立っているのか考察する。		
	○ 世界の地形と人々の生活 ● 2部 1章 1節	2	・生活と地形の関わり	・大地形は、人々の生活にどのような影響を与えているかを理解する。		
			3	・河川がつくる地形と人々の生活	・河川地形では、人々はどのように生活しているかを理解する。	①世界の大山脈や大平原が、なぜそこに、どのようにできてきたのかについて理解している。 ②世界の大山脈や大平原の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③大規模な地形が人々の生活に影響を与えている様子について、恩恵となる部分を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。
			1	◇前期中間考査 (実施しない場合もあり)		①河川がつくるさまざまな地形が、なぜそこに、どのようにしてできてきたのかについて理解している。 ②河川がつくるさまざまな地形の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③河川がつくる地形が人々の生活に影響を与えている様子について、地形の特徴や土地利用を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。

6 / 7 / 8	○ 現代世界の国家と領域 ● 1部 2章 1節 ○ 地図から見る国内や国家間の結びつき ● 2節	3	・海岸の地形と人々の生活	・海岸地形の特徴と人々の生活を理解する。	①海岸にみられるさまざまな地形が、なぜそこに、どのようにしてできたのかについて理解している。 ②海岸にみられるさまざまな地形の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③海岸の地形が人々の生活に影響を与えている様子について、地形の成り立ちや変化を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。
		3	・氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活	・氷河地形、カルスト地形、乾燥地形には、どのような特徴がみられるか理解する。	①氷河地形、カルスト地形、乾燥地形が、なぜそこに、どのようにしてできたのかについて理解している。 ②氷河地形、カルスト地形、乾燥地形の形成過程や、それらの地形がどのような点で人々をひきつけているのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③氷河地形、カルスト地形、乾燥地形の景観としての特徴を見いだしたうえで、それらの地形が観光資源として人々をひきつけている要因について主体的に追究し、課題を見いだしている。
		3	・国家の領域と国境	・国家の領土・領空・領海について理解する。	①世界を構成する国家の領域の定め方、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解している。
		3	・地図から見る日本の位置と領域	・日本の領土問題について考察する。	国家の領域や世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴を見いだすための、読図の技能を身につけている。
		3	・グローバル化と多様な結びつき	・国家間の結びつきの変化を経済圏に着目しながら理解する。	②国家の領域はどのように定められており、どのような領土問題があるのかや、世界の国々はどのように結びついており、どのような交通、通信、人の移動の特徴があるのかについて、地図を通して多面的・多角的に考察し、表現している。
		3	・拡大する貿易	・世界の貿易の特徴を先進国と途上国の関係や、国家間の協定に着目し理解する。	③国家の領域の定め方や領土問題、世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだしている。
		1	◇前期期末考査		
9 / 10 / 11	○ 世界の気候と人々の生活 ● 2部 1章 2節 ○ 世界の産業と人々の生活 ● 3節	4	・生活と気候の関わり	世界の気候は、どのように広がり、人々の生活とどのように関わり合っているのかを理解し、各気候区の特徴を考察する。	①世界の気候の広がりや、気候と人々の生活が深く関わり合っていることについて理解している。 各気候帯の特徴や広がり、気候と深く関わり合いながら、気候帯のなかでも異なる生活が築かれてきたことについて理解している。 ②衣食住に着目しながら、世界の気候がどのような広がり方をしているのかや、気候と人々の生活がどのように関わり合っているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 気候要素の違いに着目しながら、同じ気候帯のなかでも気候の差異がみられることや、各地で人々がどのような生活を築いてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③気候と深く関わり合いながら人々が生活を築いてきたことについて、衣食住を手がかりに主体的に追究し、課題を見いだしている。 各気候帯の気候を背景に、人々が築いてきた生活上の工夫や合理性について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
		1	・熱帯の気候と人々の生活		
		1	・乾燥帯の気候と人々の生活		
		2	・温帯の気候と人々の生活		
		1	・亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活・気候		
			□ 対面授業		
		3	・生活を支える農業の発展	・農業の国際化や技術の発達は、世界の人々の生活にどのような影響を与えてきたのかを理解する。	①農業の国際化や技術の発達が、世界の人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 ②自らの食生活をイメージしながら、農業の国際化や技術の発達が、世界の人々の生活にどのような影響を与えてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③農業の発展が、自らの食生活だけでなく世界の人々の生活も変えてきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。

令和6年度 遠隔授業配信シラバス(1年)

	○ 複雑に絡み合う地球的課題 ● 2章 序説	3	・生活を支える工業の発展	・工業の発展は世界の人々の生活をどのように変化させてきたかを理解する。	①工業の発展が世界の人々の生活を変化させてきたことについて理解している。 ②工業の発展の経緯や移り変わりに着目しながら、技術の進歩が世界の人々の生活をどのように変えてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③工業の発展と深く関わりながら、世界の人々の生活が変化してきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
		5	・地球的課題と解決に向けた目標 ◇後期中間考査	世界にはどのような地球規模の課題があり、課題どうしはどのように関わっているかをSDGsの目標と照らして理解する。	①どのような地球規模の課題があり、課題どうしがどのように関係しているのかについて理解している。 ②SDGsと照らしながら、地球規模の課題や、課題どうしの関係性について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地球規模の課題に対するSDGsの達成に向けて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
12 / 1 / 2 / 3	○ 日本の自然環境 ● 3部 1章 1節	3	・日本の自然環境と人々の生活	日本の自然環境にはどのような特徴があるかを地形や気候と自然災害との関係に着目しながら理解する。	①世界と比較した日本の自然環境の特徴について理解している。 ②地形や気候、自然災害との関係に着目しながら、日本の自然環境にはどのような特徴があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③世界の地形や気候、自然災害と比較した日本の自然環境の特徴について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
	○ 地震・津波や火山活動による災害と防災 ● 2節	1	・地震災害		①自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにもみられる防災・減災への取り組みを理解している。
	○ 気象災害と防災 ● 3節	1	・火山災害		自然災害の発生場所や要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにもみられる防災・減災への取り組みを見いだすための、地理的見方・考え方を身につけている。
		1	・さまざまな気象災害		②どのような自然災害がどのような場所で生じるのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。
		1	・対策と備え		③自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
	○ 探究 ● 2部 1章 5節	6	・地球規模の課題と諸地域の取り組み	・これまでの学びに関連させ、事例1～10の中から一つを選び、課題解決型のレポートにまとめる。	①現代世界のさまざまな地域の地理学習をもとに、諸地域が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の地球の在り方などを構想し、探究する手法などについて理解している。 ②現代世界のさまざまな地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、世界が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の地球の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。 ③こうした探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。